野田小学校　校長室だより
ふじだな
No.38
令和８年１月 22 日
大阪市立野田小学校
校長　川辺　智久

阪神淡路大震災から 31 年

平成７年１月 17 日、朝５時 46 分。とてもとても大きな揺れがありました。私は新任教員１年目でした。確か、３連休明けの火曜日で、その日は学習参観が予定されていたように記憶しています。その頃は、実家の奈良に住んでいましたが、ちょうど朝起きようとしていた時に、大きなゆれがあったので、びっくりしてとび起きました。すぐにテレビをつけると、奈良は震度「４」で、最大震度は京都で「５」とのことでした。いちばん大きく揺れた地域の情報が即時に入ってきていなかったことに、後で気付きました。

とりあえず出勤しようといつも通り駅に向かったのですが、ＪＲが止まっていました。「出勤が遅れる」と職場に電話をかけてもつながりません。その間にも幾度か余震があり、駅の看板が大きく揺れました。数十分後に近鉄が動き出したので、遠回りをして１時間以上かけて難波に出ました。難波に出ても、地下鉄が動いておらず、市バスには長蛇の列。仕方なく、御堂筋を歩いて職場に向かいました。御堂筋沿いのビルの窓が割れて道路に散乱し、ビルに近寄らないよう、歩道にはカラーコーンが並べてありました。家を出るときにはそれほど感じていませんでしたが、そのときに何かとんでもないことが起きたという実感がわきました。

御堂筋を歩くこと１時間弱。職場に着いたときには 10 時を大きくまわっていました。多くの教職員が出勤していませんでした。職員室のテレビには、とんでもない光景が映っていました。地面がひびわれ、ビルが傾き、高速道路が倒れ、家がつぶされ、大火事が起き、神戸の街が大変なことになっていることを知りました・・・。この日の記憶は、30 年以上経った今でも鮮明に蘇ってきます。

この地震で、壊れた建物に押しつぶされたり、火に巻き込まれたりして、6434 人の命が失われました。

日本は災害大国であり、地震、津波、豪雨、噴火などさまざまな災害のリスクがあります。中でも今後発生する確率が高いと予測されているのが、南海トラフ地震などの大規模な地震です。大規模な災害が発生した時、何よりも重要なのは**「命を守る行動」**です。東日本大震災の被災地の学校では、津波が起こった時の避難の方法について繰り返し学んでいたことから、子どもたちが自分の判断で無事に避難できた事例が見られました。自然災害についてしっかりと学んでいれば、いざという時に適切な行動を取り、自分の命を守ることができます。

・・・この阪神淡路大震災が起こったときには、全国からたくさんのボランティアの人たちが被災地にかけつけました。この大きな地震が起こるまでは、日本では、全国からたくさんの人たちがボランティアに来るということは、あまり行われていませんでした。真冬のこごえるような寒さの中、地震の被害にあった人たちは、食べるものもほとんどない状況だったそうです。それを聞いたボランティアの人たちが、おむすびをにぎって、被害にあった人たちに配りました。地震の被害にあった人たちにとって、どんなにありがたかったことでしょう。ボランティアの人たちによるおむすびが、たくさんの人たちを励まし、勇気づけ、人と人とのつながりを深めました。

（※裏面に続く）

※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。

（※表面より）　このボランティアの人たちの温かい気持ちを忘れないようにするために、１月 17 日は「防災とボランティアの日」、そして、「おむすびの日」と位置付けられています。（そういえば、１年前に放送していた朝ドラのタイトルも「おむすび」でしたね。震災直後、幼い頃の主人公が遠くからかけつけた人におむすびをもらう場面がありました。）この「おむすびの日」には、「人と人が手を結ぶ」「心を結ぶ」という意味も込められているそうです。普段、私たちが何気なく食べている「おむすび」ですが、たった１つでも周りの人を励ますことができます。大きなことでなくても、小さなやさしさが周りの人を勇気づけたり、あたたかい気もちにさせたりすることができるのですね。

２年前に起こった能登半島地震では、発生直後は連日報道される被災地のようすに心を痛める毎日でしたが、同時に、被災地の方々がお互いに励ましながら助け合う姿に、地域住民の日頃からのつながりの大切さをあらためて認識させられました。「地域の人と人とのつながりこそが、最大の防災力」とよく言われます。野田のまちもそうあってほしいと切に願います。

阪神淡路大震災から 31 年が経ちましたが、子どもたちには、日頃から命の大切さについて考えるとともに、周りの人たちへの小さなやさしさを大切にできる人になってほしいと思います。

のだっこ Diary

★子どもたちの学校生活のようすは、本校ホームページでも紹介しています。
随時更新していますので、ぜひご覧ください。

【防災・減災学習】１月 19 日（月）

地震や台風、大雨などの災害時に、自分の命を守る行動を考え、日頃の備えの大切さを学ぶことをねらいとして、全学年で「防災・減災学習」を行いました。

１年生は、DVD 視聴や防災かるたを通して、災害時に大切な行動や心構えを学びました。

２年生は、新聞紙スリッパやビニル袋カッパ作りを体験し、身近な物を活用する工夫を学びました。

３年生は、避難所体験を通して、災害時の生活について具体的に考えました。

４年生は、高齢者の疑似体験を通して、思いやりや支援の方法を学びました。

５年生は、救急救命講習で命の大切さと自分にできる行動について考えました。

６年生は、起震車体験を通して、地震の怖さと命を守る行動の重要性を実感しました。

今回の学習を通して、子どもたちは災害を身近なものとして考え、いざというときにどのような行動が大切か、日頃の備えについて改めて意識するきっかけとなりました。

※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。